

平成 31 年 3 月 26 日

専門学校 川崎リハビリテーション学院

学院長 花山 耕三 殿

学校関係者評価委員会

委員長 大塚 啓司

学校関係者評価委員会 報告

平成 30 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ①大塚 啓司（川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター 療法士長）
- ②宮崎 彰子（川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター 主任言語聴覚士）
- ③杉 優子（川崎医科大学附属病院リハビリテーションセンター 主任理学療法士）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第 4 回委員会 平成 31 年 3 月 23 日（会場 リハビリテーション学院 会議室）

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

各評価項目について

1 教育理念・目的・育成人材等

創立以来、建学の理念は変わらず受け継ぎながらも、社会の情勢や学生の教育ニーズの変化に柔軟な対応を取ることができる体制が整えられている。今後も学校を取り巻く状況は厳しくなっていくと考えられるが、柔軟な対応で難局を乗り切ることを期待したい。

2 学校運営

事業計画を定め、適切な学校運営がなされている。

運営委員会および各種委員会が組織され、意思決定システムが確立されている。

3 教育活動

教務委員会、教員研修委員会主導のもと、教育目標・教育課程が見直され改善が図られている。教員の資質向上を目的とした教員研修も行われている。学生による講義評価が実施され、講義内容や方法改善のため有効に活用されている。

これらの工夫により教育活動を高い水準に保つことができていると考える。

4 教育成果

平成 30 年度の卒業予定者に対する求人要請は、倍率で見ると理学療法学科 95 倍、作業療法学科 141 倍と非常に高い水準を保っている。就職率は 100 % であった。

平成 30 年度の国家試験合格率は理学療法学科 100 %、作業療法学科 88.2 % であった。両学科とも合格率は全国平均を超えている。

医療機関からの高い求人要請は、本校の教育活動やその成果が評価されたことによるものと考えられる。

5 学生支援

クラス担任制、セミナー活動、校舎内での教員室や事務室の配置等で学生と教員の距離感が近くなるよう配慮されている。

学費は全国的にみても低く設定され、経済面での大きな支援となっている。
学生にとって学びやすい環境となるよう十分配慮されていると考える。

6 教育環境

平成 21 年に完成した校舎は専門の職員により適切にメンテナンスが行われ、学生に最適な教育環境を提供することができている。

専任教員の人数は基準を満たしており、各教員の臨床および教員歴も長い。
より安定した学生教育を提供できる環境が整えられていると考える。

7 学生の募集と受け入れ

川崎医療福祉大学、川崎医療短期大学との 3 施設合同オープンキャンパス（年 3 回）と学院単独のオープンキャンパス（年 3 回）を開催、教職員による高校・大学への訪問など、積極的な募集活動が行われている。

昨年度入学試験の制度が変更された。入試制度の変更による入学者の動向を把握し、入学選考基準が適切であったのか検討していただきたい。

8 法令等の遵守

ソーシャル・ネットワーキング・サービス等への不適切な書き込みによる個人情報の漏洩や企業の信頼失墜が問題となっている。臨床実習に関わる個人情報の扱いについては、学生に対して入念にオリエンテーションを実施し、問題発生を防ぐ取り組みがなされている。

資格を取得し就職してからも重要となる内容なので、今後も十分な指導を行っていただきたい。

9 社会貢献

他施設と連携した研究活動や研修会・講演会等への会場提供や講師派遣、関連する学会や研究会の運営などを通じた社会貢献がなされている。今後も学校の教育資源や施設を十分活用して、地域ならびに社会への貢献の役目を果たしていくことが望まれる。